

学校通信 7月号

令和4年7月4日 発行

自分の命は自分で守る！ しっかり判断できる子に

6月末に早くも梅雨が明け、空の色がすっかり夏色に変わりました。先日には、今年初めての地震避難訓練を行いました。子どもたちにはいつも「自分の命は自分で守ること」の大切さを伝えています。いつかまた来るその時に、近くに先生や家族がいるとは限らないからです。命はかけがえのないものであり、大切につなげられず、交通事故や水難事故など、しっかり判断して自分の命を守る行動がとれる子どもになってほしいとお話ししました。



「熱中症指数」なるものが示され、暑すぎる場合には水泳も中止にするよう通知がやって来ます。先日「こんなに暑いのにプールが中止になったりしたら暴動が起こります！」と6年生が直訴にきました。熱中症を恐れ過ぎて、少しでもリスクのある活動は全て中止にしていくのであれば、どうして「子どもたちの生きる力」や「教師の指導力」を高めることができるでしょう。感染症、熱中症…と、学校現場の悩みごとはなかなか尽きませんが、子どもたちのために何とか知恵をしばっていきたいと思います。



校長 佐野 正信

恐れ過ぎず、暑い空気にしっかり触れさせましょう

さて、熱中症の話題が連日メディアで取り上げられています。すると、これまでの感染症対策から一転、マスクを外す指導を行うようと、学校へはしきりに国や県市から通知が送られてきます。私は、毎朝、通学路を歩きながら登校してくる子どもたちの様子を見ていますが、子どもたちは大人が心配するよりしっかり適応してきていると感じます。「暑かったらマスクを外してもいいんだよ」と声をかけると、「大丈夫です。お友だちとおしゃべりしたいので外しません。」と笑顔で返してくれました。しっかり自分の頭で判断し、行動を決めていることに私は感心しました。



そもそも、体中を毛に覆われているイヌなどと違って、ヒトは皮膚の表面から放熱し、体温調節を行うことができる動物です。子どもたちはその機能が未熟なため、肌で暑いと感じて脳に情報を送り、脳が全身に指令を出して放熱したり、発汗したりして体を冷やすために動き始めるといった自律神経の仕組みをしっかりと発達させることが大切です。熱中症が怖いからと、涼しいところでずっと過ごさせておくことは、子どもたちがこの暑い国で生きる力を育むことにはつながりません。



本校では、暑い中でも教員たちが子どもたちを誘い、一緒に運動場に遊びに出ている姿が見受けられます。昼休みの終わりを告げる音楽が鳴ると、まるで水浴びでもしたかのように頭から汗をふき出しながら、掃除場所に戻っていく子どもたち。「いい汗かかっているね！」と声をかけると、「暑すぎます〜！」と叫びながらもその表情はキラキラしています。そんな様子を見ながら、子どもたちの体の中ではしっかり夏の準備が進んできていることを感じます。

いよいよ子どもたちが楽しみにしていた水泳指導を3年ぶりに再開しました。3年生以下は、初めて入る小学校のプールです。今年、本校では怖さを取り除き、水に親しむことに重きをおいて、水泳指導を進めてまいります。ところが、国や県市からは「熱中

7月の行事予定

日	曜	行 事
1	金	
4	月	個人懇談 13:45～ 火曜校時
5	火	月曜校時 委員会 チャレンジ検定 銀行日
6	水	個人懇談 13:45～
7	木	個人懇談 13:45～
8	金	個人懇談 13:45～
11	月	クラブ
12	火	
13	水	
14	木	脊柱側弯症検診5年(全)6年(一部)
15	金	給食終了
18	月	海の日
19	火	
20	水	終業式
21	木	夏季休業日(～8/24)

8月の行事予定

- 25日(木) 始業式
- 30日(火) 夏休み作品展
- 31日(水) 夏休み作品展

※今後の感染症拡大の状況や天候により、予定が変更になることがありますので、ご理解ください。

☆欠席連絡について

グーグルフォームによる欠席連絡を使用していただきありがとうございます。入力・送信は午前9時までに行ってください。ご協力よろしくお願いします。